

芥川也寸志先生の思い出

田中 司

(打楽器、入団1966年)

芥川也寸志先生、彼は「神様がいたずらして創ったこれ以上素敵な人間はいない」といった感じの素敵な人間であった。容貌、身のこなし、話し方、創造性、演奏、作品、ユーモア、厳しさと思ひやり、服装のセンス、持ち物のセンス、存在のどの一部を取っても最高であった。新響の魅力は芥川先生の魅力であった。毎週の練習は、その素敵な芥川先生が、本気で関わってくださっていた。練習だけではなく、運営委員会にも、合宿にも、超多忙な中、出てくださっていた。1960年代の事である。

僕にとって、最も印象に残っているのは、1969年に行った、沖縄・九州演奏旅行である。僕は、その時、運営委員として楽器係を担当していた。全ての楽器を車で運搬していたのだからそれは大変なものであった。汽車から降ろした楽器を駅でトラックに積み込み、ホールに運び、セッティングが終わると、もうクタクタであった。本番が始まると緊張よりも、「ほっと一息」といった感じである。九州のある会場、本番で、芥川先生と目が合った。「コウモリ」序曲の「鐘」の出る所である。目が合ったのだけれど、僕は「鐘」も「ハンマー」も持っていない。一瞬、芥川先生の頭の上にエクスクラメーションマークが出た。「ごめんなさい」、「いいよ」。

乗っていない曲では、当時僕が愛用していた「オリンパスペンFT」35mmハーフサイズの一眼レフで、憧れの芥川先生の写真をたくさん撮った。驚いた事に、というより嬉しい事に、芥川先生も同じカメラを持っておられた。ステージの写真は、三脚も使っていないし、当時はASA感度も80位であったので、ピントは悪いけれど、素敵のかたまりみtainな芥川先生の写真が僕のアルバムにはたくさん並んでいる。

汽車の中でも、芥川先生は、団員の色々なグループの所に現れて、面白い話をしてくださる。打楽器グループでは、シトロエンの自慢話が印象に残っている。

「シトロエンはね、油圧で車高が変えられるのでパンクした時もジャッキはいらないんだよ。車高を上げておいてつかえ棒をはさんで車高を下げると車輪が浮いてしまうんだよ。」

「シトロエンにはミシュランのタイヤが付いていてね、これがすごいんだよ。雪の時はチェーンを付ける代わりにちょっと空気圧をさげると全然滑らなくなるんだよ。いつか雪が降った時、喜んで澁谷の坂まで出掛けて行って試したら、他の車はツルツル滑っているのに何でもないんだよ。」

1970年8月、福島県岳温泉での合宿に、愛車シトロエンCX2000で颯爽といらした芥川先生の写真が、僕のアルバムにある。

芥川先生血気盛んな頃の練習では、よく誰かが血祭りにあげられた。

「そんな勝手な事吹くんなら君が指揮者になりなさい。ここに出てきて吹きなさい！」

「そんなめっちゃくちや叩くのなら楽器を叩かないで手を叩いていなさい！」

僕もしょっちゅう怒られていた。ある邦人作品のタンバリンをやった時である。どうしても出来ないパッセージがあった。そこに来て芥川先生ににらまれると萎縮して余計出来なくなる。芥川先生もそれが

分かってか、半ば諦めて、その個所は、ちらっとこちらを見るだけで通り過ぎていた。それがあつ時、そこで急に止められた。また怒られると思った時である。

「田中さん、それでいいんだよ、それで。」

僕は、ちゃんと出来てオケを止めてしまったのである。

芥川先生との最後の曲は、ファリヤの「三角帽子」である。僕は、ドラとカスタネットをやつた。初めてのファリヤを明るく和やかにやつた印象がある。ちなみに僕が新響で最初に芥川先生の指揮で演奏した曲は、1966年サマーコンサートでのベートーヴェンの「田園交響曲」である。

芥川先生の思い出

写真

沖縄九州演奏旅行

- ①～⑤ 1969年10月28日（熊本市民会館）
- ⑥～⑨ 1969年10月29日（佐賀市民会館）
- ⑩～⑬ 1969年10月30日（長崎市公会堂）
- ⑭ 1969年11月1日（大分文化会館）
- ⑮、⑯ 1969年11月2日（小倉市民会館）
- ⑰ 1969年11月2日（福岡市民会館）
- ⑱～㉔ 1969年11月3日（都城市民会館）
- (21) 1969年11月4日（鹿児島文化センター）
- (22)～(25) スナップ（1969年10月30日）
- 1970年4月13日
- (26)、(27) ステージリハーサル
- 合宿（岳温泉）
- (28)～(31) リハーサル（1970年8月9日）
- (32)～(34) シトロエン（1970年8月10日）































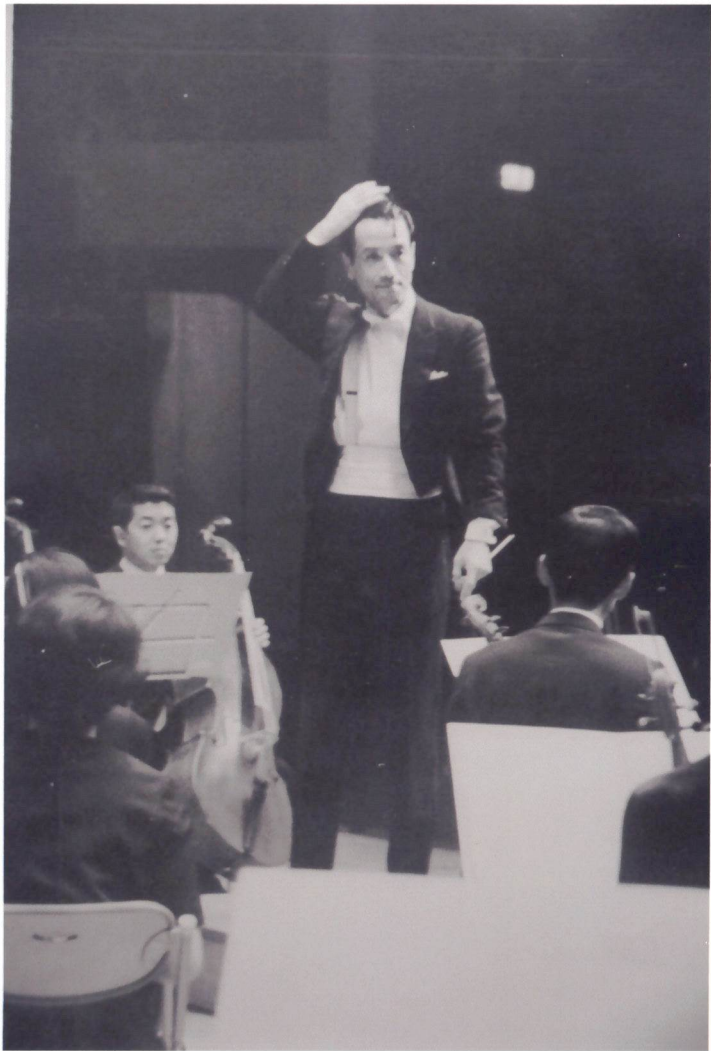








































舞台入口







NEW SYMPHON

86.11













